

計  
二、五六戸  
四〇八二燈

四、從事員

出張所長 平林市郎

### 六、新京電業局

新京電業局は吉林省省内満鐵附屬地、北満特別區及新京特別市を含む間島省、興安南省、冀西省及京四送電線路をその業務管轄區域としてその下に吉林支店及范家屯出張所を統轄す。

#### 1、新京電業局直轄營業地域

新京孟家屯、大屯、范家屯各満鐵附屬地、新京特別市城内、商埠地並新設市街及其の附近を直轄地域としその下に范家屯出張所を有す。

本市は早くより日支兩電氣事業併立し居り兩者對立の狀態にあれども舊東北政府より隔たりたると土地の特殊事情よりして比較的兩者抗爭事件の少き土地なりき。然し乍ら日本側は依然附屬地外に發展するの機を得ず支那側又日本の優秀なる設備と經營技術の利用をなし得ずして水く不振を呻ち兩者對立の弊他事業と異なるところなかりき。

滿洲事變を一楔機として兩者相扶の實を擧げ、滿洲電業會社の成立を見ると同時に兩者を併せて新京電業局の隸下に置けり。

舊滿電新京支店

各說

## 各 説

一〇八

明治四十年四月一日満鐵會社の創立に依り長春附屬地の經營は電氣施設の必要を痛切に感じたるを以て電氣作業所に於てその計畫を進め四十一年八月二十八日驛貨物ホーム前に長春電燈假營業所を設置し其の建設を急ぎ同四十三年二月一日營業を開始せり爾後大正十五年六月一日満電の創立すると共に同社長春支店と改稱更に昭和七年三月滿洲國建國され長春が首都新京とせらるゝに及び新京支店と改稱せり。

發電設備は當初明治四十三年二月三相交流二〇〇Kw發電機一台を新設して營業に當りしが同年九月二〇〇Kw發電機二台を増設更に大正三年四〇〇Kw一台大正九年四〇〇Kw二台大正十一年一〇〇〇Kw一台翌十二年一〇〇〇Kw一台を増設其の間舊汽機の移設撤廢をなし現在設備容量は一八四〇〇Kwなり。

當支店は附屬地内供給を主としその創設以來順調なる發達をなし來り明治四十三年より寬城子の供給を開始し大正二年十一月には既に一萬燈に達し大正三年六月以来晝夜間送電をなし當地方の特殊工業たる製粉業の發達を助長せり。

昭和四年送電線を公主嶺に同六年には更に四平街に延長し事業の擴張を圖りしが事變に當りては尙全く對立關係に在りし新京電燈廠の發電所を閉鎖し連絡送電線に依り所要電力全部を供給することにせり。

滿洲國成立後は其の首都たるに鑑み電燈電力急激に増加し發電設備不足を告げたれば八年

安東支店より三〇〇〇K.W.發電機一台を移設し更に九年七〇〇〇K.W.一台を増設して新需用に應じつゝあり國都區域に對する供給に付きては始め滿電と新京電燈廠との間に日滿合辦會社設立の議起りたるも將來の事業統制上中止し滿電新京支店より設備供給することに協議成立し既に供給し居れり。合同直前電燈數八萬八千燈電力容量六千九百馬力を算せり。

#### 舊新京電燈廠

明治四十四年(宣統三年)七月二十六日の創業にして米商協隆慎昌兩洋行との間に機械(容量百K.W.)建築据付並内外線工事一切價格銀拾六萬五千五百參拾六元五分の請負契約を締結したるものなり。大正五年二百K.W.發電機の擴張計畫を樹てたるも該計畫は過小なる爲改めて五百K.W.增設せんとせしが歐洲大戰の爲進捗せず、後米國G.E.會社との間に三百K.W.發電機並英國B.W.製二百馬力汽罐共の他一式を米金八萬壹千參百六拾九弗十六仙にて施工契約せり。大正八年十一月舊電燈廠内に吉大洋貳千壹百四拾九元八角八分にて木造發電所を新設せしが越えて九年三月には伊通河岸に工費吉大洋五萬五千參百六拾五元六角を以て新電燈廠を建築する計畫を樹て十年八月三百K.W.發電機到着を待つて舊廠内に据付完了せしが更に吉大洋四千壹百元を技じ新廠を改修し十一年四月舊機を取外し、新廠に移轉十二月一日運轉を開始せり。

大正十二年四月二百二十五馬力汽罐を金壹萬五千八百拾六元にて購入据付け、十三年には吉大洋壹萬九千壹百四拾九元八分を投じ改修並新設工事を施し、且十四年九月南嶺兵舍送電の爲

各 説

一一〇

工事材料費吉大洋九千餘元を費したるも年末更に吉大洋參萬壹百七拾參元五角七分の舊債を返還せり。

大正十五年八月米國G.E.會社より五百K.W.發電機及二百五十四馬力水管式汽罐(スターリー)一基を米金五萬五千弗(内壹千五百弗)にて購入し十六年三月より据付を開始し八月竣工せり。爲に石炭消費量減少し旁々需用の増加もあり材料費等に吉大洋貳萬四千參百八拾五元を要したるも猶吉大洋參萬七千四百元の舊債を返還することを得たり。

十六年に於ては三百K.W.發電機の基礎改修並二百K.W.機器の撤廢ポンプの改修等に吉大洋壹萬四百貳拾四元を費したるも朝鮮銀行五家銀行團等に參萬元共他合計吉大洋六萬八千餘元を返却し十七年に至りては實に收入吉大洋參拾五萬參千七百拾元支出拾六萬九千參百四拾元差引利益拾八萬四千餘元を生じ最も順調なる成績を挙げたり同十八年一月朝鮮銀行共の他の銀行借款を返済する爲吉林永衡官銀號の投資を仰ぎて今日に至る。

事變後電氣供給上の萬全を期すべく滿電より受電することに決定昭和六年十一月連絡送電線竣工せるが滿電の周波數五十に對し電燈廠は六十サイクルなる爲變壓器を取り換へ全部を滿電より受電することとなり當地が滿洲國の新京に決定するや市街の發展異常なるものあり燈數使用並眼に見えて増大の勢を示せり因みに當廠は合同前まで新京特別市政公署の管理に屬す。合同前電燈四萬二千燈電力容量千百馬力を算せり。

0191

一、興業費(九.二二) 金 一〇〇五〇〇〇圓

二、發電所設備(一〇.三)

發電機

製作者スター  
ル種類三相交流 電壓三三〇〇V 周波數五〇 回轉數三〇〇〇回

容量一四〇〇Kw 台數一基

製作者三菱種類三相交流 電壓三三〇〇V 周波數五〇 回轉數三〇〇〇回

容量一四〇〇Kw 台數一基

汽罐

製作者B&W 汽壓一五 加熱面積四七九平方米 台數一基

製作者大阪汽車種類タクマ式 汽壓一五 加熱面積三八〇平方米 台數二基

各說

一一一

1249

## 各 説

製作者 B &amp; W

汽壓一五 加熱面積六六〇平方米 台數二基

製作者 三菱

汽壓二四 加熱面積五八五平方米 台數一基

## 原動機

製作者 スタール

種類タービン 回轉數三〇〇〇回 容量二四〇〇KW 台數一基

製作者 三菱

種類タービン 回轉數三〇〇〇回 容量一四〇〇KW 台數一基

製作者 三菱

種類タービン 回轉數三〇〇〇回 容量二八〇〇KW 台數二基

製作者 W.H.

種類タービン 回轉數三〇〇〇回 容量三〇〇〇KW 台數一基

製作者 三菱

種類タービン 回轉數三〇〇〇回 容量七〇〇〇KW 台數一基

## 三、送電線設備(一〇三)

イ、京公送電線(新京—公主嶺)

長六三杆 回線數一 電壓四四〇〇〇V

周波數五〇 支持物鐵柱五五五本

ロ、公四送電線(公主嶺—平衝)

長五四杆 回線數一 電壓四四〇〇〇V

周波數五〇 支持物鐵柱四五九本

ハ、京吉送電線(新京—吉林)

長一二八杆 回線數一 電壓四四〇〇〇V

周波數五〇 支持物木柱二七六四本

## 四、内外線設備(九一三)

各 局 事 務 長 員 (九二二)	六、從 電 計 熱 別 般	一 電 計 力 燈 燈	從 定 額 數 器 數	電 線 路 壓 柱 直 長 式 式 壓	電 線 氣 方 柱 長 式 式 壓	電 線 路 壓 柱 直 長 式 式 壓
岡 村 金 藏	四 六 五 戶	九 八 二 七 戶	九 八 二 七 戶	高 壓 三 三 〇 〇 V	低 壓 三 二 〇 V	一 一 〇 V
	七 四 五 戶	一 一 四 六 九 戶	二 五 九 八 二 燈	交 流 三 相 三 線 式		
	四 七 七 戶	三 一 三 九 六 戶	一 五 三 三 四 七 燈			
			一 七 九 三 三 九 燈			
				一 三 〇 五 台	一 五 九 四 八 K VA	
				七 〇 二 六 本	三 一 九 杆	
						七 〇 一 〇 三

一一三

## 各 説

一一四

A	職員	員	員	員	員	員	員
	日人	四六人	滿人	八人			
雇	日人	二七人	滿人	二二人			
傭	日人	一三〇人	滿人	一二七人			
計	日人	二〇三人	滿人	一五七人			

## A 范家屯出張所

當出張所は合同前滿電の經營に係り范家屯營業所と稱せられたるものなり。

范家屯に於ける電氣事業は大正八年末當地有力者間に計畫せられ之が援助を滿鐵に求めたるも容れられざりしを以て范家屯居住者のみにて創立する事となり大正九年六月二十日資本金二十萬圓を以て電氣事業經營を關東廳に出願翌十年一月八日諸手續を了し長春帝國領事館に會社設立登記をなし范家屯電氣株式會社を創立せり。

然れども創立當初當事者の計畫方針その當を得ず發電所建設に當り機械の選擇を誤り殆ど使用に堪へざる古發電機を据付けたる爲め燃料の消費量多く又數次の破損に依る修繕費、故障より起る停電休業に伴ふ減收等に依り收支償はず遂に拂込資本の過半を失ふに至れり茲に於て新機械の增設を計畫し第二回株金の拂込を決議したるが財界の不況と會社營業の不振等に依り拂込不能株式は總株數の過半に達し大正十二年一月二十日遂に滿鐵會社に是が救済歎願書を提出するに至れり當時長春地方事務所長たりし井上信翁氏の斡旋に依り滿鐵會社の諒解

を得て其の救濟を受くることとなり救濟條件につき支那側株主間に異論を唱ふる者ありしも大體満鐵側の主張條件を容れ、その救濟を仰ぎ整理を行ひし結果社業漸次好調に向ひたり、其の後昭和八年四月満電之れを買収し、新京支店范家屯營業所とす。

發電設備は當初大正九年十二月三相交流五〇K.W.の發電機一台を以て發電所を新設大正十三年八〇K.W.發電機一台を増設せるが昭和四年以來新京より受電する事となり發電所は之を閉鎖せり。

### 一、内外線設備

電 壓	高壓三三〇〇V	低壓一〇〇V
電 氣 方 式	交流三相三線式	
線 路 直 長	一一五糺	

電 柱 本 數	二九九本
變 壓 器	二五台
電 灯	一八九KVA

### 二、需用狀況（九二二）

定 從 計	燈 量	額 額
六 五 九 戶	一 五 六 戶	五〇三戶
		一三八四燈
		一三八一燈
		一七六五燈

各 説

各 説

二二六

電 力	一戸	五 K W
熱	一八戸	一七 K W

### 七、吉林支店

吉林支店は吉林、哈達灣及共の附近を營業區域とす。同地域は元吉林電燈廠の經營にかかりしものを滿洲電業會社成立と同時に繼承せるものなり。

明治四十年(光緒三)當地に寶華電燈公司の設立を見、シーメンスの古機器二百五十馬力にて營業を開始せるも後永衡官銀號の投資するところとなり永衡電燈廠と改められるも最近更に吉林電燈廠と改稱せらる現に交流發電機五百 K W 二基、千五百 K W 一基を設備す。滿洲中央銀行設立されたる後は當廠は同行に接收移管さるゝに至る。最近發電施設の不足を感じ満電新京發電所より受電することに決し昭和九年三月十三日より受電を開始せり因みに受電變壓器容量は三〇〇〇 K V A(五〇サイクル)なり。合同前電燈數四萬六千燈電力容量八百馬力を算せり。

### 一、發電所設備(一〇三)(閉鎖中)

#### 發電機

製作者 G E、種類三相交流 電壓二三〇〇 V 周波數六〇 回轉數三、六〇〇回  
容量五〇〇 K W 二基 一、五〇〇 K W 一基

#### 汽 罐